

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅢB (DD208)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるための支援方法を学ぶ。尊厳の保持の観点から、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含め、適切な介護技術を用いて支援することを目標とする。安全に援助できる技術や知識について習得していく。演習では、排泄の介護を学ぶ。また、尊厳が保持された人生の最終段階における介護について学ぶ。そして、<u>自立支援、生活の豊かさ</u>について考え、本人主体の生活が継続できるよう、<u>根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得していく。</u></p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている（介護福祉士としての）専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							②⑤⑦ ⑨⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に不快な思いをさせない排泄支援を説明できる。</li> <li>・安全で的確な排泄支援のための環境整備や直接的な介助（見守り・一部介助・全介助）について説明ができる。</li> <li>・人生の最終段階における利用者やその家族の気持ち、具体的支援を説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・課題レポート</li> </ul>	40% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄時の利用者に関して情報を収集し、安全で的確な排泄支援について指摘できる</li> <li>・人生の最終段階における利用者や家族に関する情報を整理し、分析できる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> </ul>	10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄を支援する介護者の姿勢、排泄支援を受ける利用者の特性について表現ができる。</li> <li>・人生の最終段階における利用者や家族との関わりが説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> </ul>	20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況・状態に応じた排泄介助や環境整備について他者と協調し、取り組むことができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度・参加度</li> </ul>	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（50%）：筆記試験（持ち込み不可）を行う。</li> <li>・課題レポート（30%）：介護実習室演習時の「生活支援技術演習レポート様式」を用いて作成し、提出を課す。尚、レポート記載方法については授業内で指示する。レポートは授業内で紹介する。また、排泄に関する課題を課し、レポートを作成する。レポートは授業等でフィードバックする。</li> <li>・授業態度・参加度（20%）：演習課題への取り組み状況や教員への確認・質問状況等で評価する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>個人のプライバシーや尊厳を重視した排泄の介助について、基礎的な知識と技術を学ぶ。排泄は人間にとって欠かせない行為であり、自立が望まれる。よって自立に向けた視点での支援と心理面の配慮についても学んでいく。また、介護は人の人生の最期に関わることもある。終末期についてディスカッションも交えながら理解し、利用者の尊厳の保持、QOLを高める支援について学ぶ。これらがよりよく学べるため、授業毎冒頭には前回の振り返り（口頭確認等）を実施する。実技チェックを実施することもある。授業の振り返りやレポートは、ポートフォリオのレポート機能やアンケート機能を用い提出することもある。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版株式会社  参考書：授業時に適宜紹介する  指定図書：『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版株式会社</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

本授業は、支援の方法や順序だけを学ぶものではありません。利用者が心地よく生活をするために行うことにはどのようなものがあるのかということ意識的に考えるようにしてください。  
 利用者の生活が充実するために支援するという意識も併せてもち、直接利用者に触れて行う支援と利用者の心に触れる支援の両方を学ぶために授業を受けてください。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	<u>自立に向けた排泄の介護①</u>	オリエンテーション 排泄の意義と目的について学ぶ。	予習：「排泄」という行為が示す範囲を考える 復習：配付資料の再読
2	<u>自立に向けた排泄の介護②</u>	排泄に関する利用者のアセスメントについて、ICFの視点から学ぶ。	予習：ICFの概念確認 復習：配付資料の再読
3	<u>自立に向けた排泄の介護③</u>	排泄に関する基礎知識（排泄のメカニズムと排泄動作）を学ぶ。 便秘・下痢を起こす原因と予防、尿回数が増える原因について学ぶ。失禁の種類や症状について学ぶ。	予習：排泄のメカニズムを考える 復習：テキスト・配付資料の再読
4	<u>自立に向けた排泄の介護④</u>	気持ちよい排泄を支える介護の工夫を学ぶ。安全・的確な排泄の介助の技法（トイレ）について学ぶ。	予習：排泄介護の工夫を考える 復習：安全な介助法まとめ
5	<u>自立に向けた排泄の介護⑤</u> <u>福祉用具の意義と活用①</u>	安全・的確な排泄の介助の技法（トイレ、ポータブルトイレ）について学ぶ。	予習：ポータブルトイレ種類調べ 復習：演習レポート作成
6	<u>自立に向けた排泄の介護⑥</u> <u>福祉用具の意義と活用②</u>	安全・的確な排泄の介助の技法（ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器）について学ぶ。	予習：尿器・便器調べ 復習：演習レポート作成
7	<u>自立に向けた排泄の介護⑦</u> <u>福祉用具の意義と活用③</u>	安全・的確な排泄の介助の技法（採尿器・差し込み便器、おむつ）について学ぶ。	予習：おむつの種類調べ 復習：演習レポート作成
8	<u>自立に向けた排泄の介護⑧</u>	安全・的確な排泄の介助の技法（おむつ）を学ぶ。	予習：実技内容確認 復習：演習レポート作成
9	<u>自立に向けた排泄の介護⑨</u>	便秘・下痢時の対応について学ぶ。尿回数が増える時の対応について学ぶ。	予習：便秘・下痢を調べ 復習：配付資料の再読
10	<u>自立に向けた排泄の介護⑩</u>	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の留意点について学ぶ。他の職種の役割と協働について学ぶ。	予習：排泄での多職種連携を考える 復習：多職種協働整理
11	<u>人生の最終段階における介護①</u>	終末期における介護の意義、目的（尊厳の保持、事前意思確認）について学ぶ。	予習：終末期意味調べ 復習：配付資料の再読
12	<u>人生の最終段階における介護②</u>	終末期における利用者のアセスメントを、ICFの視点から学ぶ。医療との連携（看取り）を学ぶ。 アドバンス・ケア・プランニングを学ぶ	予習：看取り現状調べ 復習：配布資料の再読
13	<u>人生の最終段階における介護③</u>	終末期における介護について学ぶ。臨終時の介護（臨終時の対応）について学ぶ。	予習：臨終期の介護者の視点を考える 復習：演習レポート作成
14	<u>人生の最終段階における介護④</u>	家族や近親者への支援（死の準備教育・グリーフケア・デスカンファレンス）について学ぶ。	予習：「グリーフ」の意味調べ 復習：配付資料の再読
15	<u>自立に向けた排泄の介護と人生の最終段階における介護についてのまとめ</u>	自立に向けた様々な排泄の介護、終末期における介護について、学んだことをふまえて理解を深める。	予習：配付資料、テキスト確認 復習：全項目復習
16	定期試験		